



地域住民主体の「支えあう、いま・福のある里づくり」を目指して ～自主防災会のICTを活用した取り組みについて～

島根県浜田市 今福地区自主防災会
会長 岩崎 敏



今福地区は島根県西部に位置し、地区内には、中国地方でも指折りのゴルフ場・認定公認コースのグラウンドゴルフ場・乗馬体験の出来る馬牧場等、多くの魅力あるレジャー施設を抱え、9集落が分散立地した、人口492人・世帯数219・高齢化率45%・面積13.6km²の中山間地域です。

今福地区では令和2年7月から「ICTを利用した防災情報の収集、伝達体制の整備の訓練と実施」を行ってきています。地区自主防災会の役員を中心に、今福自治振興会、9町内会、民生委員、消防団と協働で「災害時には自助・共助・公助を念頭に、誰一人取り残さないまちづくり」を目指し活動しています。以前は“段ボールベッド”の作成や“炊き出し訓練”を行っていましたが、自主防災会役員から「災害状況や安否確認をもっと迅速に把握し、伝達する訓練をしたらどうか」という提言があり、役員会で検討を重ね“オンライン訓練”を行うことを決定しました。

活動の概要としては、令和2年に地区自主防災会役員から選出されたリーダー16名で、オンライン会議の訓練をはじめ、令和3年に「9町内集会所とまちづくりセンターを本部とした情報伝達訓練」を経て、令和4年6月には1歳児から90歳までの地域住民168名が各集会所に集まり「浜田市総合防災訓練の情報伝達訓練」に参加しました。この時、集まった住民の情報伝達だけでなく、民生委員による独居者の安否確認、動画を使った河川状況や道路等災害の



今福小学校の引き渡し訓練の様子



今福地区自主防災会員止水栓調査



自主防災会会長が各リーダーに指示している様子

状況伝達も即時に伝達できる体制となりました。

また、中山間地で冬季は寒さや積雪対策が必要であるため、平成28年12月水道管凍

結対策として、今福地区内全戸(空家を含む)の止水栓調査を一斉に行い場所等の調査データをまちづくりセンターで管理しています。効果としては、令和2年の寒波と積雪で水道が止まった時の迅速な対応を市に要求することができました。

I C Tを活用した訓練の効果として、高齢者向けの生涯学習体験スマホ教室と共催し、地域の保護者世代が携帯会社勤務の履歴を活用され講師となり、生涯学習と連携した活動となりました。また、高齢者も訓練がきっかけとなりスマートホンを買って替えて、防災だけでなく“Q O L”の向上に役立っています。加えて、各集会所で現リーダーが次世代へ声をかけ、役員を増やすことで活動人口が増える効果や世代間の信頼関係を築く等「繋がりづくり・人づくり」の効果もありました。

令和3年8月9日台風9号による避難指示発令の折には、実践として情報伝達を1回実施しており、7町内と本部を繋ぎました。情報伝達を行う事前に自主的に町内を見回るリーダーがいたり、休日の中でも即座に対応できた町内が多かったり、年に4回～5回の訓練の賜物で防災意識が高まっていることを実感できました。この台風9号による大きな被害は無く、避難者もありませんでしたが、河川の状況や各地域の状況を口頭だけでなく、動画で確認することで、地域の的確な情報把握にも一役買うことが出来ました。

自主防災会の取り組みとして、役員のモチベーションが上がったことで、小学校の“保護者引き渡し訓練”にもこれまでは、貸館だけで終わっていたものが、地域と学校とが連携することが出来るようになりました。主に保護者の車の誘導、I C Tを利

用した小学校、まちづくりセンターの児童の待合室、保護者の誘導先等、各現場を結んで本部が指示を出すことで、これまでと数段違った、迅速かつ確実な誘導ができるようになりました。



各リーダーによるオンライン訓練の様子

地域の取り組みは対人的影響のほか、他地域での講演、市報、県の広報等社会的な影響もあり、まだまだ改善点も沢山ありますが、今後も「誰一人取り残さないまちづくり」を目指し、地域住民の活動人口をさらに増やしながらか行政や各団体と連携し、持続可能な活動になるよう取り組んでいきます。

